



化に向けた実証実験に引き続き取り組んでまいります。

本市の完全失業率は、平成22年の18・2%から平成27年は、7・5%へと大幅に改善されましたが、まだ高い数値であることから、雇用促進事業を継続するとともに、失業率の高い若者向けに就業支援事業を実施し、「働く場の確保」、「ミスマッチの解消」、「就業意欲の向上」の観点から、失業率の改善に取り組んでまいります。

この3つの基本政策を中心に取り組んできた成果として、市内に活気が生まれ、民間投資を促す魅力的な地域として、近年、大規模な住宅開発や大型商業施設等の相次ぐ立地につながっています。

本市のさらなる発展のため、引き続き、3つの基本政策を中心とした様々な施策に果敢に取り組んでまいります。

さて、昨年も多くの子供生徒や若者が文化・スポーツの分野で活躍し、私たちに明るい話題を提供してくれました。

トランポリンの全国大会や日本最大のキッズダンスコンテスト、そして、日本最大規模のピアノコンクールにおいて、優勝や金賞受賞の目覚ましい活躍がありました。

他にも様々な分野において、県大会などで優秀な成績を収めたとの嬉しい報告が多数ございました。

それから、地域の取り組みが認められる嬉しい話題もありました。

て、引き続き、日米両政府及び米軍へ強く求めてまいります。

昨年9月に行われた市議会議員選挙により、新人7名を含む30名の議員が当選されました。市政発展のために、これまでと同様、市議会と連携した市政運営を心掛けてまいります。

今回、沖縄振興予算の枠組みのなかで、新たに沖縄振興特定事業推進費が創設されました。本市においても、この予算を活用した取り組みについて、検討してまいります。

ここからは、私の市政運営に対する基本姿勢や社会情勢等の所感を述べてまいります。

ここからは、本市の将来像である「愛しています 住みよいまち うるま」の実現に向け、第2次総合計画で掲げる各施策と、私の3つの基本政策を推進するため、2019年度の予算並びに主要事業の概要について説明いたします。

### 3 2019年度の予算規模

2019年度の予算編成にあたりましては、「第2次うるま市総合計画」及び「3つの基本政策」、「第15回実施計画」等を踏まえ、各施策の目標達成に取り組むとともに、「第3次行政改革大綱」に

全国の地域イベントに光をあて、地域コミュニティの活性化と地域イベントの向上などを目指して行われている「笑顔あふれる地域イベントアワード」において、「勝連城復活プロジェクト」の取り組みが、最優秀賞を受賞しました。

この受賞は、関係する皆様の励みとなり、さらなる地域活性化につながるものと期待しております。

昨年4月に行われたゴルフトーナメントにおいて、本市出身のプロゴルファーである新垣比菜選手が初優勝を成し遂げました。今後の活躍を期待しています。

さらに、11月に開催された「大分国際車いすマラソン」において、本市出身の喜納翼選手が2回連続で優勝する快挙を成し遂げました。今年開催される世界選手権で4位以内に入賞しますと、東京パラリンピック代表候補選手として推薦されることから、その活躍を願っております。

市内の動向については、県道33号線沿いに、うるまルシェをはじめ、複合商業施設の立地が相次ぎ、多くの利用者で賑わっております。

石川地域では、大型商業施設の建設工事が始まり、与那城地域においても、屋敷名土地区画整理事業地区内での大型商業施設の建設をはじめ、旧与那城庁舎へのホテル建設計画が進行しています。

また、本県のリーディング産業

に基づき、行財政改革の実施に努め、限られた財源を効果的に活用することを基本に予算編成を行っております。

その結果、2019年度の一般会計予算は、624億6,896万2千円となり、前年度に比べ14・7%の増となっております。

また、特別会計予算などを含めた総予算額は、945億9,670万2千円となります。

なお、本市の一括交付金の基本配分額は、11億3,400万円となり、引き続き、同交付金を活用した各種事業に取り組みまいります。

勝連城跡周辺文化観光拠点整備事業の実施分に対しては、特別枠として3年間で計18億円が配分されることとなり、2019年度は、基本配分額とあわせて、総額17億3,400万円となっております。引き続き、同交付金を活用した各種事業に取り組みまいります。

<参考>

(1) 特別会計予算の内訳

国民健康保険特別会計	150億1,074万7千円
公共下水道事業特別会計	23億3,626万1千円
介護保険特別会計	100億7,012万5千円
後期高齢者医療特別会計	10億1,823万2千円
農業集落排水事業特別会計	2,119万1千円

(2) 公営企業会計

水道事業会計	36億7,118万4千円
--------	--------------

である観光においては、入域観光客が6年連続で過去最高を更新し、1千万人に迫る勢いで、好調を維持しています。

そのような中、「勝連城跡」の入場者が世界遺産登録後から数えて、200万人を達成しました。「勝連城跡」の価値を保全し、その一帯を文化・観光の拠点として東海岸地域の活性化を図るため、勝連城跡周辺整備事業を推進してまいります。

今後、これらの地域では、賑わいや雇用の創出などにより、地域経済のさらなる活性化に結びついていくものと期待をしているところであり、引き続き、伝統文化・歴史・自然環境を活かした観光誘客の取り組みを強化してまいります。

米軍に起因する事件・事故については、伊計島において、昨年1月に米軍ヘリの不時着や2月には、オスプレイから機体の一部が落下する事故が発生しました。

また、ここ数年訓練の常態化が懸念されている米軍による津堅島訓練場水域でのパラシュート降下訓練や増加傾向にあるホワイトビーチへの原子力潜水艦の寄港についても、市民の安全で安心できる生活環境を守る立場から抗議を重ねてきたところです。

基地負担の軽減に向けては、絶えず声を上げていくことが重要であり、各関係機関との連携を図りながら、米軍基地の整理縮小や日米地位協定の見直しなどについて

### 4 主要事業の概要

2019年度主要事業の概要については、まちづくりの指針となる「第2次うるま市総合計画」に掲げる6つの基本目標毎に説明いたします。

#### (1) 「みんなで支えあう健やかなまちづくり」

**地域福祉**については、市民の多様な福祉ニーズに対して支援が受けられ、互いに助け合える地域社会を推進します。

**生活保護**については、適正実施に努めるとともに、要保護者及び被保護者の自立に向けた支援を推進します。

また、自立相談支援事業や住居確保給付金事業、学習支援事業などを引き続き実施し、生活保護に至る前の自立支援に加え、貧困の連鎖防止に努めます。

**障がい者福祉**については、共生社会の実現のため、総合的な相談支援体制や就労支援等の強化に取り組み、障がいのある人が安心して生活し、社会参加ができるよう、障がい者福祉施策の充実を図ります。

**国民健康保険**については、制度改正に伴う公費の追加投入や保険者努力等により、特別会計は改善傾向にあることから、引き続き、国保税の収納対策や医療費の適正化、特定健診の受診率向上と特定

